

The Record

vol.692

2017
july

7

The Record

R

Record C

D

r

E

| 会長交替のご挨拶
| 平成 28 年度事業報告



Contents

会長交替のご挨拶	2
Monthly News Digest	3
特集	
平成 28 年度事業報告	5
特報	
期待の新人が続々登場！ 音楽ナタリー特設ページ 「Coming Next Artists」始動	9
「知的財産推進計画 2017」が決定	11
ヒットの裏側	12
Monthly Production Report	13
GOLD DISC	14



このエルマークは、レコード会社・
映像製作会社が提供するコンテンツを
示す一般社団法人 日本レコード協会の
登録商標です

会長交替のご挨拶



重村 博文
新会長

このたび、会員社の皆様からご推挙頂き、斉藤前会長の任を継いで日本レコード協会会長に就任いたしました。当協会は1942年の設立以来、本年で創立75周年を迎えました。この歴史ある団体の代表として、微力ながらレコード産業の発展のために努力していく所存でございますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、音楽市場を取り巻く環境は大きな変革期にあります。デジタル技術の進化とともにライフスタイルが様変わりし、ユーザーの価値観も「モノ消費からコト消費へ」と言われて久しい昨今ですが、大きなパラダイムシフトには必ずビジネスチャンスが存在します。ユーザーが感じる価値をいかに提供できるか、市場のニーズを把握しつつ新たなビジネスモデルを創りあげるチャレンジを続けていかなければなりません。

一方で、日本は世界一のパッケージ大国であり、その確固たるマーケットを維持していくことも重要な役割となります。音楽配信の売り上げは、サブスクリプションサービスの伸長により3年連続でプラス成長しており、配信の伸長がユーザーの裾野を広げ、パッケージ売り上げにシナジー効果をもたらすことも期待するところですが、それもあくまでヒット曲作りが大前提であり、音楽ビジネスの原点でもあります。新たなスターの創出に繋がる需要喚起策の一環として3年間実施してきた新人イベント「Coming Next」は、今年度よりウェブを中心とした多面的な展開に発展させて取り組んでまいります。また、毎年最重点施策として取り組んでいる違法配信対策についても、違法ファイルの削除要請や有害アプリへの対応等、手を休めるわけにはいきません。その他の諸問題への対応も併せまして、関係諸団体とも手を組みつつ産業の振興と音楽文化の発展のため熱意を持って会員社とともに推し進めます。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りながら更なる努力を重ねて参りますので、一層のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後に、業界の大きな変革期に4年間にわたり会長という重責を果たされ、日本のレコード産業の代表として尽力された斉藤前会長に、心より感謝とご慰労の意を表し、就任の挨拶とさせていただきます。



斉藤 正明
前会長

このたび、2017年6月30日開催の定時総会の終結をもって、任期満了により会長を退任致しました。2013年6月の就任以来、4年間にわたり会長として本職を全うできましたのも、皆様のご協力とご支援の賜物です。退任にあたり、心より御礼申し上げます。

この4年間で振り返りますと、まず2013年に違法対策の専任組織として「著作権保護・促進センター」(CPPC)を設置し、違法音楽配信の撲滅に向けて徹底した取り組みを行ってきました。業界団体による集中的かつ効率的な違法配信への対処は、コンテンツ業界の中でも先駆けした取り組みであり、今も大きな成果をあげています。

日本音楽の海外展開施策では、海外で日本音楽のムーブメントを創出するべく、「J-Music LAB」を東南アジア各地で実施いたしました。クールジャパン戦略の気運とも相まって、政府機関や諸団体との連携など海外とのネットワーク構築の礎も築く事が出来たのではないかと思います。

また、業界の永遠のテーマである新人育成については、新人アーティストによるライブイベント「Coming Next」を立ち上げました。2015年の第1回から3年、試行錯誤を繰り返しながらの実施となりましたが、業界を挙げて新しい才能を世の中に送り届けるという気概を示す取り組みとなりました。

会長在任中の4年間で業界を取り巻く環境は大きく変わりましたが、今後も我々の想像を超えるスピードで変革が進むと思われまます。このような難しい時期にも関わらず、会長職を快く引き受けて戴きました重村新会長には厚く御礼申し上げます。

最後に、重村新会長をはじめとする新たなレコード協会に皆様からの倍旧のご支援をお願いすると共に、皆様のご健勝と今後の業界の発展を祈りつつ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

5/17

IFPI中央理事会開催

5月17日、アメリカ・ワシントンDCの全米レコード協会（RIAA）会議室においてIFPI（国際レコード産業連盟）中央理事会が開催された。

中央理事会は、IFPI フランス・ムーア会長を議長とし、メジャーレーベル代表、インディーレーベル代表、主要国のレコード産業団体代表らによって構成される会議であり、今回はIFPI事務局を含め25名が出席した。当協会からは斉藤会長の代理で畑理事・事務局長が出席した。

会議においては、2016年の全世界音楽セールスおよび使用料収入の実績や主要マーケットの市場動向等について議論された。全世界でサブスクリプション型ストリーミング音楽配信の売上が60%増加し、パッケージやダウンロード販売の落ち込みをカバーして総合で5.9%のプラス成長となったこと、アジア以外の地域では音楽配信の売上がパッケージを上回り、全世界の音楽配信売上のシェアは59%に達したことなどが報告された。

またIFPIが進める「バリューギャップ」キャンペーンについては、2016年9月公表の「EU著作権指令（EU Copyright Directive）」の改正案において、ユーザーアップロード型プロバイダの法的責任を強化する案が提示されたことを受けて、この法改正を推進



するための今後の取り組み方針等が議論された。

さらに、知的財産権に造詣の深いダレル・イッサ下院議員（共和党・カリフォルニア州選出）を中央理事会に招き、実演家およびレコード製作者の長年の課題であるアメリカの放送権（アナログ放送におけるレコード使用から実演家およびレコード製作者が使用料を受ける権利）等の問題について意見交換が行われた。イッサ議員は、下院司法委員会の上級委員として高く評価されている。

その他、日本からは、TPP批准法に盛り込まれたレコード保護期間延長等の早期実現を目指す働き掛けの状況や、「柔軟な権利制限規定」に関する政府審議会の検討状況について説明した。なお、次回開催は、2017年11月を予定している。

5/25

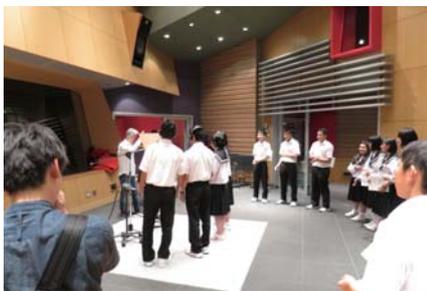
ソニー・ミュージックスタジオにてレコーディングスタジオ体験プログラムを開催

5月25日、当協会は東京都港区のソニー・ミュージックスタジオにて、中学生・高校生を対象としたレコーディングスタジオ体験プログラムを開催した。同プログラムは、音楽が制作される過程を学び、上質な環境で音楽を楽しんでいただきながら、そこで働く人の想いに触れることでハッピーミュージックサイクル（音楽創造のサイクル）の重要性を実感していただくことを目的に昨年度より開始した企画。本年度最初の開催となった今回は、三重県いなべ市立北勢中学校3年生16名が参加した。

冒頭、音楽ができるまでの流れについてレクチャーがなされた後、ソニー・

ミュージックスタジオ宮田氏によるスタジオの見学へ移った。レコーディングブースでは、生徒たちのハンドクラブを実際に録音し、楽曲を構成する音の一つとして既存の楽曲にミックスするといったレコーディング体験も行われた。エンジニアの手によって、自分たちが出した音が、バランスよく楽曲に組み込まれるように調整される作業を目の当たりにした生徒たちは、驚きの表情を浮かべながら、楽曲を構成する一つ一つの音に耳を澄ませていた。

終了後のアンケートでは、「アーティストが歌いやすい環境をつくるためのさまざまな工夫に驚いた」「1曲にエンジニアやアシスタントの方々の苦労や努力が詰まっていることが分かった」といった感想が寄せられた。



5/29 キング関口台スタジオにて レコーディングスタジオ体験 プログラムを開催

5月29日、当協会は東京都文京区のキング関口台スタジオにて、中学生・高校生を対象としたレコーディングスタジオ体験プログラムを開催した。5月25日のソニー・ミュージックスタジオでの開催に続き、今回は第一学院高等学校の四ツ谷キャンパスと秋葉原キャンパスに通う1～3年生の6名が参加した。

音楽ができるまでの過程に関するレクチャーの後、キング関口台スタジオ

高橋氏より、スタジオの歴史や設備について説明がなされ、続くレコーディングブースの見学では、生徒たちが実際にプロのミュージシャンが使用するピアノの演奏に挑戦。また、マスタリングエンジニアの吉越氏が本番さながらにコントロールルームから指示を出す中での本の朗読録音も体験。録音された自身の声を聴くと、生徒たちは普段との聴こえ方の違いや、録音したばかりの音声が短時間でミックス編集される様子に驚いていた。お気に入りのCDをスタジオ環境で聴くことができる音楽鑑賞のコーナーでは、まるで歌手がとなりにいるかのような迫力の音量に感動する様子が見受けられた。

終了後のアンケートでは、「普段見ることのできない場所で貴重な体験が

できて楽しかった」「レコーディング、ミックスダウンのことを知ることができ、CDができるまでには多くの時間がかかっていることが分かった」といった感想が寄せられた。



●●● 会員社のお知らせ ●●●

■ 新入会（7月1日付）

社名：株式会社クロア（準会員）
代表：代表取締役 戸部田 英樹
住所：東京都目黒区下目黒 3-7-2-7F
電話番号：03-5436-1960

Coming Next 2017 × LIVE DAM STADIUM コラボ企画

ベストカラオケアーティストが「ラックライフ」に決定 LIVE DAM STADIUMで“まま音”配信開始

3月23日に当協会が開催したライブイベント「Coming Next 2017」と、(株)第一興商「LIVE DAM STADIUM」によるコラボ企画「出演アーティストの楽曲を歌って応援しよう！」キャンペーンのベストカラオケアーティストに、「ラックライフ」が決定。同キャンペーンでは、LIVE DAM STADIUMに配信されているComing Next 2017出演アーティストの曲を対象に、カラオケリクエストランキングを集計し、ベストアーティストを選出。この度ラックライフが「Coming Next 2017 Best Karaoke Artist」に決定した。

LIVE DAM STADIUMでは副賞として、ラックライフ「名前を呼ぶよ」のComing Next 2017ライブ映像を、ライブ映像とボーカルをカラオケでそのまま楽しむことができる“まま音”として期間限定で配信する。

配信期間：2017年7月2日（日）～12月19日（火）
配信機種：LIVE DAM STADIUM
配信楽曲：名前を呼ぶよ（Coming Next 2017より）（まま音ver.）



ラックライフ

平成28年度事業報告

平成28年の市況を振り返ると、音楽パッケージソフト（オーディオレコードおよび音楽ビデオの合計）の年間生産金額は前年比97%の2,456億円となった。また、有料音楽配信の売上金額は、サブスクリプションサービスが同161%と大きく成長し、配信市場全体では前年比112%の529億円となり、3年連続で増加した。この結果、音楽ソフト（オーディオ+音楽ビデオ）の生産金額と有料音楽配信売上の合計は前年比99%の2,985億円にとどまった。

このような厳しい業界環境が続く中、当協会では平成26年度より協会が担う役割を4つ（①業界の収益を「伸ばす」、②違法を「なくす」、③レコード産業への理解・著作権思想を「広める」および④業界の情報基盤整備により足元を「固める」）に整理し、優先度を付けて事業に取り組んでおり、平成28年度は、以下の事業を推進した。

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 「音楽CDの再販制度」の維持

- (1) 会員各社の再販弾力運用の取り組みを報告書にとりまとめ、3月に公正取引委員会へ提出し、当協会ホームページで公表した。
- (2) ユーザーサービスの一環として実施しているインターネット廃盤セールを、1月11日から1月23日の間実施した。

2. 需要喚起事業の展開

- (1) ミュージック・ジャケット大賞の実施
「ミュージック・ジャケット大賞2016」は、平成28年3月よりWeb投票を開始するとともに、4カ所の特設会場で投票を実施し、総投票者数は前年比142%の43,325名となった。5月12日「Music Jacket Gallery」内覧会時に受賞作品（大賞：星野源「YELLOW DANCER」）を発表し、テレビ・新聞・Webニュース等で取り上げられた。
- (2) CDショップ大賞への協賛
「第9回CDショップ大賞」（主催：全日本CDショップ店員組合）は、CDショップ店員1,030名の投票により受賞作品（大賞：宇多田ヒカル「Fantôme」／準大賞：Aimer「daydream」）が選出され、3月13日の授賞式で発表された。その模様は主要なテレビ・ラジオ・新聞、Webニュース等で取り上げられた。また、主要販売チェーン店でコーナー展開を実施した。
- (3) Coming Next 2017の実施
新人育成等を目的とした「Coming Next 2017」（正会員18社から1組ずつ期待の次世代アーティストが出演するイベント）を3月23日に豊洲PITで開催し、約1,500名が来場した。またPR施策として、ナタリー、第一興商、HMV、タワーレコード、山野楽器、Live FansのほかAWA、Google Play Music、KKBOX、

LINE MUSIC、レコチョク Best 等と連携し、ラジオ、新聞、Web等で展開を図った。当日の様子はAbema TVにて平成29年4月23日（日）に放送された。

3. 日本ゴールドディスク大賞の実施

第31回となる「日本ゴールドディスク大賞」各賞を2月27日に発表し、テレビ9番組のほか、新聞各紙、Webサイト等で取り上げられた。

4. 日本音楽の海外展開の促進

- (1) 音楽産業・文化振興財団（PROMIC）主催「第13回東京国際ミュージックマーケット（TIMM）」（10月24日～26日開催）への運営支援を行うとともに、当協会主催のシンクロライセンスに関するセミナー「Sync Summit 2016@13th TIMM」を実施した。また、セミナーのパネラーらと会員社担当者とのネットワーキングを実施し、海外における原盤ビジネスの促進を図った。TIMMへの総来場者数は4,959名、ブース出展数は35社・団体、来場した海外バイヤーは約100名（16カ国・地域）で、商談件数は212件、うち成約件数は65件だった（交渉中を含む）。
- (2) 6月4日にタイ・バンコクで開催された「ドラマフェスティバル in バンコク」（主催：東京ドラマフェスティバル実行委員会）にアーティスト2組を派遣し、来場者約1,000人の前でライブパフォーマンスを行うとともに、同日アニメイトバンコク店にてインスタライブを実施し、日本音楽の普及に努めた。
- (3) SNS等にて海外での影響力が高い人物をインフルエンサーとして、また日本在住の海外留学生をアンバサダーとして起用し、TIMMや会員社アーティストのライブ等のレポートを海外に向けて情報発信するとともに、同アンバサダーを講師とし、出身国のコンテンツ事情や消費者動向に関する勉強会を実施した。

5. 大学寄附講座の開催

若年層のレコード産業・著作権制度への理解を深めることを目的とした大学寄附講座「クリエイティブビジネスと著作権」(全15コマ)を、昨年度に引き続き明治学院大学で開講し、427名が履修した。平成26年度から続いた同大学への寄附講座は今年度で終了した。

6. RIAJセミナーの開催

会員社を対象に計7回(①「新入社員合同研修会」、②「労働法等の法改正の動向について」、③「育児介護休業法の改正関連について」、④「スマートフォンアプリ等実態調査」報告会、⑤「フェアユース／フェアリーディング／現在議論されている日本の柔軟な権利制限規定」、⑥「音楽メディアユーザー実態調査」報告会、⑦「世界で活躍する日本のアーティストの共通点とは～J-meloリサーチから考える～」)開催した。

7. その他

「Music J-CIS (Music Japan-Copyright Information Service) 協議会」の構成団体として活動を行った。音楽権利情報データベースを充実させるため、平成28年度発売新譜等の楽曲情報取り込みを実施した。その結果、平成28年度末時点での収録楽曲総件数は約503万件まで拡大した(前期末約485万件)。

[2] レコード等に関する調査研究およびデータの収集

1. 市場調査、産業統計の充実

音楽パッケージソフトの月別生産実績ならびに四半期毎の音楽配信売上実績を集計し公表した。また、音楽配信ビジネスの変化に合わせて音楽配信の統計区分を平成29年1月より変更した。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

「2016年度音楽メディアユーザー実態調査」を実施し、ユーザーの音楽利用実態の推移や音楽消費の変化に関する定点観測のほか、「消費者のライフスタイルに着目した音楽需要分析」および「ファン化モデルの構築」の特定テーマについてユーザー動向を掘り下げて調査し、会員社向けに報告会を開催した。

[3] レコードを通じた音楽文化の保存に関すること

1. 文化庁芸術祭への協力

「第71回文化庁芸術祭」のレコード部門申請窓口として63作品を参加申請し、参加が承認された30作品の中から芸術祭大賞1作品、優秀賞2作品が選出された。

2. 日本プロ音楽録音賞の共催

優秀な音楽録音作品を選定し、その録音エンジニアを顕彰する「第23回日本プロ音楽録音賞」を、当協会と日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、日本オーディオ協会および演奏家権利処理合同機構MPNにより共催し、12月6日に授賞式を開催した。

[4] 著作権および著作権隣接権等の普及・啓発に関すること

1. 違法音楽配信を撲滅するための対策の強化

- (1) 動画共有サイト、ストレージサービス等に対する違法アップロードファイルの削除要請件数は年間約78万4,000件となった(前年度約61万件)。有害音楽アプリの音源取得先である中国サイトに対して著作権保護・促進センター(CPPC)から重点的に削除要請を実施したこと、また、YouTubeへの大量動画アップローダーのアカウント削除等の対策により削除要請件数は前年比128%となった。また、「Google検索結果における違法音楽リンクの非表示対応」については、平成28年度は合計9,920件の非表示を要請し、非表示達成率は97%(前年度計:7,245件、非表示達成率92%)となった。
- (2) 海外サイトへの削除要請については、当協会が中国サイトを直接訪問し交渉した結果、その中のひとつであるQQ.comが、削除が滞っていた約1万件的違法音楽ファイルの削除に応じた。また、国際レコード産業連盟(IFPI)の探索システムも併用して海外サイトへの削除要請を実施するなど、探索対象を拡大して対策の強化を図る取り組みを開始した。
- (3) スマートフォン向けアプリマーケット運営事業者に対する有害アプリ削除要請を継続実施(App Store:15件、Google Play:6件)した。
- (4) 音楽ファイルの違法アップローダーや海賊版の頒布者に対する告訴件数は15件であった(前年度実績13件)。
- (5) 「ファイル共有ソフトを悪用した著作権侵害対策協議会」(CCIF)が実施するプロバイダを通じた違法P2Pユーザーに対する啓発メール送信スキームを継続実施した。
- (6) P2Pファイル共有ソフトの悪質利用者45名を抽出し発信者情報開示請求を実施した。発信者情報が開示された34名については損害賠償請求交渉を実施中であり、一方、非開示の11名についてはプロバイダに対する発信者情報開示請求訴訟の提起に向けて準備した。

2. 著作権教育活動の実施

- (1) 中高生の会員社および当協会への職場訪問・出張授業対応実績は、243校・2,528名となった。
- (2) 今年度より、音楽が制作される過程を学び、さらに上質な環境で音楽を体感する機会の提供を目的として、中高生を対象としたレコーディングスタジオ体験学習プログラムを開始し、4校32名の学生が参加した。
- (3) 文化庁主催著作権セミナーや自治体主催イベント、NTTドコモ主催「スマホ・ケータイ安全教室」等において、当協会の啓発リーフレット98万6,000部を配布した。

3. レコード保護期間の延長に向けた活動

アメリカのTPP離脱に伴い改正著作権法の施行が不透明になる中、レコード保護期間延長等の早期実現に関係省庁等に働きかけた。

4. 私的録音録画補償金制度の見直しを求める活動

音楽権利者団体と連携し、著作権分科会傘下の小委員会における検討に参画した。

5. レコードの業務上の利用から適正な対価が還元される制度創設に向けた活動

海外の関係権利者団体と連携し、関係省庁等に対して制度創設の要望を行った。

[5] レコード等に関するデータの公表

1. 出版物の刊行

月刊機関誌「THE RECORD」を発行し、会員社、関係団体、官公庁、マスメディア、業界関係者などに配布した。また、日本のレコード産業の年間統計資料集として「日本のレコード産業2017」を和文、英文で制作した。

2. ホームページの運営

当協会の活動とさまざまなレコード産業に関する情報を幅広く提供した。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送二次使用料収入の安定的確保

- (1) 平成28年度の二次使用料について、NHKは16億4,600万円（前年比1.4%増）、民放連は39億1,700万円（前年比0.03%減）で確定した。
- (2) 平成26年度以降のWOWOW二次使用料について、5年契約で従前水準の1.5倍まで漸増させる内容で合意に達した。

(3) 平成28年3月に開始したV-Lowマルチメディア放送(i-dio)について、平成29年3月までの二次使用料について合意した。

(4) 二次使用料・複製使用料等の徴収額の合計は74億4,000万円(前年度比4.5%増)、権利者分配額は70億600万円（前年度比5.6%増）となった。

[7] レコードに関するレコード製作者の複製権、譲渡権および送信可能化権等ならびに実演家の送信可能化権等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送番組のネット配信にかかる集中管理に関する取り組み
平成23年度以降のNHKオンデマンド使用料について、過去分を含む使用料額について合意した。

2. 教育・文化系催事のレコード利用集中管理事業の推進
NHK放送コンテスト・バトントワーリング大会に係るレコード複製について、平成28年度の許諾件数は1,116曲（前年比112.6%）だった。また、馬術大会でのレコード利用について、日本馬術連盟と年間包括契約を締結した。

3. ブライダルコンテンツの実証実験

平成28年4月に開催された日本ホテル協会主催の説明会にて権利処理への理解を求めた。一任型集中管理事業化の細目（使用料規程案等）の検討を進め、10月より利用者側に規程案の意見伺いを実施し、3月に使用料規程等の変更手続きを完了した。平成29年4月より集中管理事業を開始。

4. 放送番組の海外展開に係る原盤権処理効率化の取り組み
平成28年度は前年度までの実証実験のルールを延長し、8放送局57番組の海外番販に対して90原盤を許諾した。並行して、平成29年度以降は放送ブランクット契約の許諾範囲に含める方向で放送局と協議を重ねた。

[8] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

徴収額は20億3,900万円（前年度比12.2%減）、権利者分配額は18億5,100万円（前年度比14.4%減）となった。

[9] 私的録音補償金に関する指定管理団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の受領および分配

1. 私的録音補償金

私的録音補償金管理協会(sarah)から1,400万円（前年

度比22.5%増)を受領し、1,300万円(前年度比22.9%増)を権利者に分配した。

[10] その他

1. 政府の審議会等への委員派遣および経済団体への参画等
文化審議会著作権分科会等へ委員を派遣するなど、外部の会議体等に積極的に参画し、意見の表明を行った。
2. 国内・国外の団体、機関との連携活動
国内の音楽関係団体ならびに国際レコード産業連盟(IFPI)およびアメリカレコード協会(RIAA)等海外のレコード産業団体との連携と情報交換を実施した。
3. 「レコード倫理審査会」の開催・運営
月次会議にて、会員社から発売された全邦楽作品9,530点について審査を行った。
4. 業界規格(RIS)の制定と改正
日本レコード協会規格(RIS)504別冊「各種コード一覧表」(2016年10月版)を発行した。
5. “ISRC”(International Standard Recording Code)の管理機関としての活動
今年度は、登録者コードの新規発行件数が31件(前年度32件)、個別コードの発行曲数が15,799曲(前年度16,629曲)となり、その結果、平成29年3月末時点の累計は登録者コード発行件数が1,779件、個別コード発行曲数が196,789曲となった。

6. 福祉・厚生施設へのレコード寄贈
今年度(第54回)は、8,702枚の音楽CDを福祉施設220箇所、東日本大震災被災地および熊本地震被災地の臨時災害放送局8局ならびに東日本大震災被災地の図書館101箇所へ寄贈した。
7. 会員社業務の集約化(シェアードサービス)
新規著作権管理事業者NexTone社に対する会員社からの録音等許諾申請を効率化するため、ジャパンミュージックデータ社と連携してEDI(電子データ交換)の導入に向けたシステム整備を実施した。

運営体制

平成28年度における当協会の運営体制は次の通りである。



期待の新人が続々登場！ 音楽ナタリー特設ページ「Coming Next Artists」始動

当協会主催の新人アーティストによるライブイベント「Coming Next」が新たな展開を迎える。ポップカルチャーのニュースサイト・ナタリーとタッグを組み、より幅広いリスナーへ継続的な情報発信を行うべく、ウェブメディアを通じたプロモーションに取り組む。今号では、7月3日に公開を開始した会員レコード会社の新人アーティストを紹介する大型特集「Coming Next Artists」についてレポートする。



Coming Next Artists メインビジュアル

本施策は、宣伝、販促、デジタル部門の担当者を中心に構成するComing Next委員会で検討を行っている。このたびの特設ページ公開に際して、藤倉尚委員長にコメントをいただいた。



Coming Next委員会 委員長
藤倉 尚氏

ユニバーサル ミュージック合同会社
社長兼最高経営責任者

アーティストを育てること、ヒット曲を生み出すことは、音楽ビジネスそしてレコード会社の原点であり、永遠のテーマでもあります。当協会では「次なるスター」の登場がエンタテインメント業界の活性化につながると考え、会員各社の新人アーティストによるライブイベント「Coming Next」を2015年より3年間にわたり開催してまいりました。

これまで「日本ゴールドディスク大賞」をはじめ「大人の音楽キャンペーン」「ミュージック・ジャケット大賞」などさまざまなキャンペーンに取り組んできましたが、「Coming Next」は、「新しい才能やアーティストを世の中に送り出す」という各レコード会社の強い意志を形に表したものです。

今年度からは、少し形を変えてWEB展開を中心に1年を通じた取り組みとして生まれ変わります。イベント開催形式で行う場合は、見られるお客様の数がどうしても限定されてしまう面もありましたが、特に若い世代の方に向け、日々接することの多いネットメディアを通じて、アーティストや作品の魅力を1年間訴求することが可能になります。

7月より、ポップカルチャーのニュースサイトとしてはトップクラスのアクセス数やSNSでの情報拡散力を持つ「音楽ナタリー」をプラットフォームに特設ページ「Coming Next Artists」を開設し、大きな期待が集まる各社の新人アーティストを週替わりで紹介していきます。

毎回ゲストパーソナリティも迎え、「Coming Next Artists」ならではのスペシャルインタビューを展開し、話題性も高めてまいります。

さらに、ショップや配信サイトなどとも「Coming Next Artists」をベースにさまざまな連携も行っていきます。新しい音楽、アーティストと出会うことができるコンテンツとして、アーティスト、楽曲、そして音楽業界の魅力を発信してまいりますので、是非ご期待ください。

2017年7月3日スタート!

Coming Next Artists

<http://natalie.mu/music/pp/comingnextartists>

トップページ



インタビューは以下4名がパーソナリティを務める。

パーソナリティ プロフィール

菅野結以 (カンノユイ)

雑誌「LARME」「with」などで活躍するファッションモデル。10代の頃から「Popteen」「PopSister」の専属モデルを務め、カリスマモデルと称される。2010年8月に初の著書「(C) かのの」を出版し、その後最新スタイルブック「yuitopia」まで6冊の書籍を発売。アパレルブランド「Crayme」、コスメブランド「baby+A」のプロデュースおよびディレクションを行っているほか、TOKYO FM「RADIO DRAGON -NEXT-」では豊富な音楽知識を生かしてパーソナリティを担当している。SNSの総フォロワー数は約100万人におよぶ。



Tom-H@ck (トムハック)

サウンドクリエイター、プロデューサー。編曲家としてもいるクローバーZ、でんぱ組.inc、T.M.Revolution、SuG、マジカル・パンチラインといったアーティストの楽曲制作に携わっている。2009年に放送がスタートしたアニメ「けいおん!」のオープニングテーマ「Cagayake!GIRLS」の作曲と編曲を手がけ注目を集める。また2014年にはTom-H@ck featuring 大石昌良名義でアニメ「ダイヤのA」のオープニングテーマ「Go EXCEED!!」を発表した。2015年にはクリエイターユニット・MYTH & ROIDを立ち上げ、自身もアーティストとして幅広く活動している。



新人アーティストインタビュー

毎回、音楽プロデューサーやアーティスト、俳優、モデルといった各界の著名人がパーソナリティを務め、それぞれの視点で新人アーティストの魅力に迫る。

7月3日に公開した第1回インタビューでは、よしもと・アール・アンド・シーのjealkbが登場。音楽番組のパーソナリティを務めるなど、さまざまなアーティストと交流のある菅野結以が、jealkb再始動に賭ける思いを掘り下げる。

今後も会員レベル大ブッシュの新人アーティストが続々と登場する予定。



「Coming Next Artists #1」音楽ナタリーより

今後さまざまな視点から「音楽を楽しむ」をテーマとした連載コラムを発信予定。

須賀健太 (スガケンタ)

東京都出身の俳優、タレント。1999年に子役デビューし、2002年放送のドラマ「人にやさしく」で五十嵐風役を演じ注目を集めた。その後映画「ALWAYS 三丁目の夕日」シリーズへの出演を経て、2006年公開の「花田少年史 幽霊と秘密のトンネル」で映画初主演、2010年放送の「新撰組 PEACE MAKER」で連続ドラマ初主演を果たすなど、数々のドラマ、映画で活躍。2015年からはハイパープロジェクト演劇「ハイキュー!!」で主人公の日向翔陽を演じている。音楽好きとしても知られ、2017年にShout it Out「青年の主張」のミュージックビデオに出演した。



ピエール中野 (ピエールナカノ)

凛として時雨のドラマー。高度なテクニックに裏打ちされたドラムプレイやステージで見せる独自のマイクパフォーマンスで多くの音楽ファンの支持を獲得している。CHAOTIC SPEED KING、玉筋クールJ太郎のメンバーとしても活躍するほか、DJやコラム連載でもその才能を発揮。2011年より自主イベント「ピエールナイト」を開催している。2011年9月にドラム教則DVD+BOOK「Chaotic Vibes Drumming 入門編」「Chaotic Vibes Drumming 実践編」をリリース。2014年6月にさまざまなアーティストとのセッションを収録したミニアルバム「Chaotic Vibes Orchestra」を発表した。2017年7月には主催イベント「ピエールフェス 2017」を開催する。



「知的財産推進計画 2017」が決定

5月16日、首相官邸で知的財産戦略本部会合が開催され、「知的財産推進計画 2017」が決定した。知財本部の下に設置された、検証・評価・企画委員会における審議を通じ、知的財産の創造・保護・活用に関する行動計画として毎年度策定されるのが「知的財産推進計画」である。今年度は、我が国が引き続き目指すべきイノベーション創出・地方創生・文化創造の実現を目指し、ビッグデータや人工知能を駆使したデータ利活用に関する知財制度の構築や、コンテンツの海外展開促進を目的とした産業基盤の強化に関する内容などが盛り込まれている。

以下、全体構成を紹介するとともに、レコード業界に特に関連性が高い事項について内容を抜粋した。

I. 第4次産業革命（Society5.0）の基盤となる知財システムの構築

1. データ・人工知能（AI）の利活用促進による産業競争力強化に向けた知財制度の構築

- ① データ利活用促進のための知財制度等の構築
- ② AIの作成・利活用促進のための知財制度の構築
- ③ 第4次産業革命（Society5.0）の基盤となる著作権システムの構築

＜イノベーション促進に向けた権利制限規定等の検討＞

- ・著作権法における柔軟性のある権利制限規定について、文化審議会著作権分科会報告書（2017年4月）を受け、明確性と柔軟性の適切なバランスを備えた複数の規定の組み合わせによる「多層的」な対応について、それぞれ適切な柔軟性を確保した規定の整備を行うため、「推進計画 2016」を踏まえ、速やかな法案提出に向けて、必要な措置を講ずる。また、ガイドラインの策定、著作権に関する普及・啓発、およびライセンス環境の整備促進などの必要な措置を講ずる。

＜円滑なライセンス体制の整備・構築＞

- ・集中管理による契約スキームやワンストップ窓口となる「音楽集中管理センター」（仮称）など、民間におけるライセンスのための環境の整備・構築に係る取り組みに対して、その具体化に向け必要な支援を更に行う。

＜持続的なコンテンツ再生産につなげるための環境整備＞

- ・クリエイターへ適切に対価が還元され、コンテンツの再生産につながるよう、私的録音録画補償金制度の見直しや当該制度に代わる新たな仕組みの導入について、文化審議会において検討を進め、結論を得て、必要な措置を講ずる。

＜教育の情報化の推進＞

- ・ICT活用教育における著作物の円滑な利活用に向けて、文化審議会著作権分科会報告書（2017年4月）を受け、授業の過程における著作物等の公衆送信の円滑化について、新たに補償金請求権付の権利制限規定を整備するなど必要な措置を講ずる。教員・教育機関間の教育目的での教材等の共有については、より詳細なニーズを把握した上で、引き続き検討を行う。

2. 知財システムの基盤の整備

3. グローバル市場をリードする知財・標準化戦略の一体的推進

II. 知財の潜在力を活用した地方創生とイノベーション推進

1. 攻めの農林水産業・食糧産業等を支える知財活用・強化
2. 地方・中小企業による知財活用と産学・産産連携の推進
3. 「国民一人ひとりが知財人材」を目指した知財教育・知財人材育成の推進

III. 2020年とその先の日本を輝かせるコンテンツ力の強化

1. コンテンツの海外展開促進と産業基盤の強化

- ① 継続的なコンテンツ海外展開に向けた取り組み
- ② コンテンツと非コンテンツの連携強化
- ③ クリエイターの創造環境整備（コンテンツ創出とビジネス展開を担う人材の育成とそのための製作機会の提供、適正な利益還元促進等）

＜インターネットを活用した放送コンテンツの提供の検討＞

- ・コンテンツ視聴環境の多様化やビジネスモデルの変化に対応するため、インターネットを活用した放送コンテンツの提供サービスを実施する上での課題について、関係者の議論の動向や意見等を把握し、必要に応じて適切な対応を検討する。

④ 新技術によるコンテンツ表現開発の促進

⑤ 模倣品・海賊版対策

＜インターネット上で流通する模倣品・海賊版対策＞

- ・インターネット上の海賊版対策については、オンライン広告対策の民間における検討体制の運用について支援するとともに、リーチサイト対策、サイトブロッキングに係る課題の検討など、全体的な取り組みについて関係府省が連携しつつ、引き続き検討を行う。
- ・リーチサイトを通じた侵害コンテンツへの誘導行為への対応に関して、権利保護と表現の自由のバランスに留意しつつ、関係者の意見を十分に踏まえ、法制面での対応を含め、具体的な課題の検討を加速化させる。

2. 映画産業の振興

3. デジタルアーカイブの構築

「知的財産推進計画 2017」本文は、以下参照。
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/170516/siryou2.pdf>

多くの人を魅了したヒット曲は、どのように世に送り出されたのか。音楽人の苦闘が織り込まれた『ヒットの裏側』をリレー形式でひも解いていく。

10代の音楽ファンと一緒に市場を創っていく

田村 優氏

株式会社インクストゥエンター 代表取締役



❁ ダンスミュージックで基盤を作る

中学生で洋楽にハマり、高校生でDJデビュー。当初はストリート系の音楽に親しんでいた僕ですが、大学に入り、そのままじゃ食えないなと思っていたところ、大学の先輩や同級生の仲間の影響で面白そうだと感じたダンスミュージックの制作に携わるようになりました。ちょうどDTMが流行り始めの1990年代後半。パソコン好きの僕はすぐDTMに馴染み、人材不足もあって重宝され、19歳頃にはメジャーレーベルのダンスミュージック作品を手掛けるようになりました。本格的なCDデビューは2001年、ビクターエンタテインメントから出た大学サークル関連のコンピレーションアルバム「ダンス・パニック! プレゼンツ・アニヴァーサリー 2001」でした。ビクターのA&R、金子正樹さんにお声掛けいただき、制作全部を自分でやったのですが、当時20歳前後だった人間によくぞ任せてくれたと思います。

さらに金子さんと共にトランスのCDを作って仕掛けたら売れ始め、各社から発売されるさまざまなコンピレーションも手掛けるようになりました。大学4年で会社を立ち上げる一方、レコード会社に入りたくて就職活動をしました。採用には至らず。そのまま大学に在籍し、トランスをはじめとしたダンスミュージックのCD制作に取り組みました。ビクター「ブチアゲ! トランス」、EMI「姫トランス」、エイベックス「スーパー・ベスト・トランス」といったシリーズを含め、最終的に約300タイトルを制作、累計300万枚以上は売れたのではないかと思います。会社も順調に回り出し、基盤が出来た大学8年目の時、今のスタジオ付オフィス(コロムビア代々木公園ビル)に移転しました。ここは日本コロムビアの専属作家の方がオーナーで、音楽への熱い気持ちがあり、スタジオを守りたいという志をお持ちでした。僕もその気持ちに共感し「頑張ります」と宣言して貸していただいたんです。ここを拠点にできたのは、僕の大きな転機となりました。

❁ 次の流行を読んで、成果を挙げる

すぐレンタルスタジオ業務も始めたのですが、僕がエイジア エンジニアというアーティストのサブメンバーをやっていた縁もあって、

AI、EXILE、倅田来未、安室奈美恵といった多様なアーティストに活用してもらえるようになりました。出入りするアーティストと一緒にCD制作を進めるうちにマネジメント業務を開始、今のメイン事業になりました。初期からのアーティストにはTiara、KEN THE 390がいます。

徐々にダンスミュージックの流行りが衰えるなか、僕は次に流行るのは何だろうと模索していました。YouTubeやニコニコ動画を見ていたら、ボーカロイドのプロデューサーたちが手掛ける作品が目に入り、そのクオリティに心を惹かれたんです。それが初音ミクとの出会いですね。彼らに声を掛けてマネジメント契約を結び、まずビクターのA&Rの金子さんと組んで、2008年8月にメジャー初となる初音ミク歌唱によるアルバム、livetune feat. 初音ミク「Re:Package」をリリース。これがスマッシュヒットし、さらに、2009年3月には当時ソニー・ミュージックダイレクトのエグゼクティブプロデューサーの清水光さんと組み、supercellのアルバム「supercell feat. 初音ミク」をリリース。これが大ヒットとなり、2009年8月には、ソニー・ミュージックレコーズからsupercell初のメジャーシングル「君の知らない物語」をリリースし、大成功を収めました。以降、当社のアーティストも増え、今につながっています。

ビクターとは、ネット・プロモーションを中心に据えたことで、初音ミクというネット環境から飛び出したキャラクターにとってもマッチしました。一方でソニー・ミュージックは、テレビスポットをダイナミックに使うなど従来の王道プロモーションを展開してくださり、僕の持ち込んだネット・プロモーションとの融合した結果、非常に良い相乗効果が生まれました。このように、他にも多くのレコード会社とのお付き合いがあることで、各社の有能な方々から多くのノウハウを吸収できることは非常に有難かったです。

僕が大事にしているのは、クリエイティブ/時間/資金の3要素のバランスを取ることと、常に流行を読むこと。10代の音楽ファンが僕の手掛ける市場の軸ですが、13~18歳頃までの5年をかけて彼らの好きなジャンルに添い、一緒に育てる感覚でいます。CD売上は落ちたけれど、音楽は常に求められています。これから世界につながるネットをうまく使い、ポテンシャルのあるアーティストやジャンルを見つけていきたいですね。音楽好きの志ある若い人にも、どんどん業界にチャレンジしに来てほしいと思います。(談)

担当したアーティスト

Tiara、KEN THE 390、livetune、supercell ほか多数

Monthly Production Report

2017年5月度レコード生産実績

5月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）の生産実績は、数量で前年同月比106%の1,765万枚・巻、金額で同123%の210億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比89%の1,168万枚・巻、金額で同93%の124億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比167%の597万枚・巻、金額で同232%の85億円となっている。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

		5月実績						2017年1月～2017年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
8cmCD シングル	邦	2	0	57%	1	0	56%	15	0	61%	10	0	61%
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	67%	0	0	68%
	計	2	0	57%	1	0	56%	15	0	61%	10	0	61%
12cmCD シングル	邦	5,530	47	87%	4,190	34	86%	20,990	34	94%	16,371	24	97%
	洋	96	1	3424%	106	1	7195%	179	0	172%	182	0	532%
	計	5,626	48	89%	4,296	35	88%	21,169	34	95%	16,553	24	98%
シングル 計	邦	5,532	47	87%	4,191	34	86%	21,005	34	94%	16,382	24	97%
	洋	96	1	3424%	106	1	7195%	180	0	171%	182	0	529%
	計	5,628	48	89%	4,297	35	88%	21,185	34	95%	16,563	24	98%
12cmCD アルバム	邦	4,473	38	90%	6,347	51	96%	32,322	53	93%	43,386	63	93%
	洋	1,465	13	86%	1,617	13	94%	7,134	12	85%	7,247	11	94%
	計	5,937	51	89%	7,963	64	96%	39,456	64	92%	50,633	74	93%
CD 計	邦	10,005	86	89%	10,538	85	92%	53,327	87	94%	59,767	87	94%
	洋	1,561	13	91%	1,722	14	100%	7,314	12	87%	7,429	11	96%
	計	11,565	99	89%	12,260	99	93%	60,641	99	93%	67,196	98	95%
アナログ ディスク	邦	20	0	120%	25	0	98%	205	0	204%	339	0	147%
	洋	32	0	112%	60	0	121%	176	0	133%	314	0	140%
	計	52	0	115%	85	1	113%	381	1	164%	653	1	144%
カセット テープ	邦	43	0	64%	38	0	69%	269	0	76%	228	0	76%
	洋	0	0	495%	0	0	573%	4	0	581%	3	0	360%
	計	43	0	64%	38	0	70%	273	0	77%	230	0	77%
その他	邦	10	0	103%	19	0	100%	58	0	107%	97	0	99%
	洋	12	0	120%	24	0	133%	86	0	128%	171	0	131%
	計	21	0	112%	43	0	117%	144	0	119%	267	0	117%
合計	邦	10,076	86	89%	10,619	85	92%	53,858	88	94%	60,430	88	94%
	洋	1,605	14	92%	1,807	15	100%	7,580	12	88%	7,916	12	98%
	計	11,681	100	89%	12,426	100	93%	61,438	100	93%	68,346	100	95%

● 音楽ビデオ

		5月実績						2017年1月～2017年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	4,531	76	147%	5,036	59	214%	17,881	80	99%	18,002	62	93%
	洋	64	1	66%	108	1	84%	273	1	82%	496	2	113%
	計	4,595	77	144%	5,144	60	207%	18,154	81	99%	18,498	64	94%
ブルーレイ ディスク	邦	1,326	22	366%	3,305	39	297%	4,039	18	102%	10,313	35	111%
	洋	46	1	173%	96	1	110%	103	0	116%	281	1	109%
	計	1,372	23	353%	3,401	40	283%	4,142	19	102%	10,594	36	111%
テープ・その他	邦	0	0	500%	0	0	338%	1	0	93%	1	0	90%
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦	5,856	98	170%	8,341	98	240%	21,920	98	100%	28,316	97	99%
	洋	110	2	89%	204	2	94%	376	2	89%	777	3	111%
	計	5,967	100	167%	8,545	100	232%	22,297	100	100%	29,093	100	99%

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

		5月実績						2017年1月～2017年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計		11,681	66	89%	12,426	59	93%	61,438	73	93%	68,346	70	95%
音楽ビデオ計		5,967	34	167%	8,545	41	232%	22,297	27	100%	29,093	30	99%
合計	邦	15,933	90	107%	18,960	90	126%	75,779	90	96%	88,746	91	96%
	洋	1,715	10	92%	2,011	10	100%	7,956	10	88%	8,693	9	99%
	計	17,648	100	106%	20,971	100	123%	83,735	100	95%	97,439	100	96%

● ビデオレコード（含音楽ビデオ）

		5月実績						2017年1月～2017年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		7,412	77	102%	7,492	56	119%	36,065	79	100%	36,926	58	89%
ブルーレイディスク		2,239	23	174%	5,893	44	120%	9,435	21	76%	27,088	42	88%
テープ・その他		0	0	281%	0	0	164%	1	0	87%	1	0	82%
合計		9,651	100	113%	13,385	100	119%	45,500	100	94%	64,015	100	89%

● オーディオ/ビデオレコード合計

		5月実績						2017年1月～2017年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計		11,681	55	89%	12,426	48	93%	61,438	57	93%	68,346	52	95%
ビデオレコード計		9,651	45	113%	13,385	52	119%	45,500	43	94%	64,015	48	89%
合計		21,332	100	98%	25,811	100	105%	106,938	100	93%	132,362	100	92%

備考 1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
 2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
 3. オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計。
 4. 音楽ビデオ、およびビデオレコードのその他は LD、HD DVD の合計。

音楽ソフト

シングル

邦楽

ダブル・プラチナ	サイレントマジョリティー	櫻坂46	2016.04.06	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)
プラチナ	血、汗、涙	防弾少年団	2017.05.10	ユニバーサル ミュージック
ゴールド	君のころは輝いてるかい?	Aqours	2015.10.07	ランティス
	背中越しのチャンス	亀と山P	2017.05.17	ジェイ・ストーム
	THE IDOLM@STER CINDERELLA GIRLS LITTLE STARS! キラッ! 満開スマイル	島村卯月 (CV:大橋彩香)、小日向美穂 (CV:津田美波)、佐久間まゆ (CV:牧野由依)、櫻井桃華 (CV:照井春佳)、双葉杏 (CV:五十嵐裕美)	2017.04.26	日本コロムビア
	COLORS/太陽と月のこどもたち	V6	2017.05.03	エイベックス・エンタテインメント

アルバム

邦楽

プラチナ	MUSIC COLOSSEUM	Kis-My-Ft2	2017.05.03	エイベックス・エンタテインメント
	生まれてから初めて見た夢	乃木坂46	2017.05.24	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)
ゴールド	Are You Coming?	WANIMA	2015.11.04	ビザ・オブ・デス・レコーズ

ビデオ

邦楽

トリプル・プラチナ	ARASHI LIVE TOUR 2016-2017 Are You Happy?	嵐	2017.05.31	ジェイ・ストーム
ゴールド	関ジャニ'sエイターテインメント	関ジャニ∞	2017.05.10	ジェイ・ストーム (インフィニティ・レコーズ)
	ジャニーズWEST 1stドーム LIVE ♡24(ニシ)から感謝届けます♡	ジャニーズWEST	2017.05.24	ジャニーズ・エンタテインメント
	Music Video Tour 2010-2017	星野源	2017.05.17	JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント

※日付は発売日

有料音楽配信

シングルトラック

邦楽

ダブル・プラチナ	DAYS	FLOW	2005.06.01	ソニー・ミュージックレーベルズ (キューンミュージック)
プラチナ	O.R.I.O.N.	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2014.12.10	エイベックス・エンタテインメント
	Fantasia	Dragon Ash	2006.07.19	JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
	Rising Hope	LiSA	2014.05.07	アニプレックス
ゴールド	もってけセーラーふく	泉こなた (CV.平野綾)、終かがみ (CV.加藤英美里)、終つかさ (CV.福原香織)、高良みゆき (CV.遠藤綾)	2008.01.22	ランティス
	羽 1/2	EXILE	2006.07.05	エイベックス・エンタテインメント
	渡月橋 ~君 想ふ~	倉木 麻衣	2017.04.19	ノーザンミュージック
	Can Do	GRANRODEO	2012.04.18	ランティス
	HAPPY	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2017.03.01	エイベックス・エンタテインメント
	Sparkling Daydream	ZAQ	2012.10.24	ランティス
	オペリスク	シェリル・ノーム starring May'n	2009.11.25	JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
	スターゲイザー	スピッツ	2016.03.15	ユニバーサル ミュージック
	あなたのように	DREAMS COME TRUE	2016.05.02	ユニバーサル ミュージック
	Overfly	春奈 るな	2012.11.28	ソニー・ミュージックレーベルズ (SACRA MUSIC)
	リボン	BUMP OF CHICKEN	2017.05.01	トイズファクトリー
	ハレ晴レユカイ	平野綾、茅原 実里、後藤 邑子	2007.08.24	ランティス
	ふれあうだけで ~ Always with you ~	三浦 大知	2014.11.03	エイベックス・エンタテインメント

洋楽

ダブル・プラチナ	レット・イト・ゴー	イディナ・メンゼル	2014.02.26	エイベックス・エンタテインメント
プラチナ	ホワット・ドゥ・ユー・ミーン?	ジャスティン・ビーバー	2015.09.09	ユニバーサル ミュージック
ゴールド	ダーティ・ワーク	オースティン・マホーン	2017.03.17	ユニバーサル ミュージック

※日付は配信開始日

認定基準一覧 音楽ソフト (アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信 (着うた®、シングルトラック・アルバム) 共通

名称	ゴールド	プラチナ	ダブル・プラチナ	トリプル・プラチナ	ミリオン	2ミリオン
基準	10万以上	25万以上	50万以上	75万以上	100万以上	200万以上

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード数)
 ※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰
 ※※「着うた®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です
 ※※※3ミリオン以降、100万毎に認定

協会からのお知らせ

平成 29 年度（第 72 回）文化庁芸術祭参加作品の募集について

文化庁では、平成 29 年度（第 72 回）文化庁芸術祭の参加作品を募集しています。対象は「演劇」「音楽」「舞踊」「大衆芸能」の公演および「テレビ」「ラジオ」「レコード」の作品です。参加公演・作品は、各部門で内容を競い合い、成果に応じて文部科学大臣より賞が贈呈されます。



詳細は、文化庁芸術祭の HP をご参照の上、奮ってご応募ください。

http://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/h29_geijutsusai.html



エルマークキャラクター
エルマーくん

THE RECORD No.692 2017年7月号
一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 重村 博文
編集人 原 康晴
発行日 2017年7月10日
発行 一般社団法人 日本レコード協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

5～6月は、修学旅行などで東京を訪れる中高生による企業訪問学習のピークです。当協会でも、著作権教育活動の一環として、マンスリーニュースでお伝えしたレコーディングスタジオ見学と、職場訪問の受入れの2つのプログラムを実施しており、この2カ月で100名以上の学生の皆さんにお会いしました。話を聞くと、3日間の滞在のうち、企業訪問を2日目の午前中に行い、午後から千葉のテーマパークへ向かうパターンが多い様子。ほかにも学校によって楽しいスポットが目白押しかとは思いますが、ここで音楽ができるまでの流れ、業界の仕事、はたらく人々の想いなどを少しでも知ってもらえればと思っています。一方、このプログラムは、普段この年代の子と話す機会が少なく、昨今の若者の音楽事情に疎い私にとっても非常に貴重な時間です。今年は特に、YouTuberアーティストの人气が印象的でした。(M)

■ 当機関誌へのご意見・ご感想がございましたら、当協会公式サイト (URL: <http://www.riaj.or.jp/>) のお問い合わせページよりお寄せください。